

# Goshin Moro

## Supporters Club

### News Letter

---

# 02

---

茂呂剛伸後援会 会報

2016/01





新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、発起人代表 横内龍三様をはじめ発起人の皆様にも私の後援会の発足を頂き、心より感謝申し上げます。4月17日開催の発足会には、ご多忙の中、北海道副知事 山谷吉宏様、北海道副知事 荒川裕生様をはじめ沢山の皆様にご参加頂き、深く御礼申し上げます。

ユネスコの世界文化遺産認定を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群18ヶ所」の内、昨年は道内6遺跡(大船遺跡、垣の島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、鷲ノ木遺跡、入江・高砂貝塚)及び青森4遺跡(三内丸山遺跡、小牧野遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡)を巡り、各史跡管理者の皆様と交流し、縄文遺跡の土を頂戴することが出来ました。今年は青森5遺跡(大森勝山遺跡、長七谷地貝塚、是川石器時代遺跡、大平山元遺跡、ニッ森貝塚)・岩手(御所野遺跡)・秋田2遺跡(大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡)を巡ります。2017年には18遺跡全ての縄文太鼓を制作し、その響きで北海道・北東北の縄文遺跡群を繋ぎ、自然と共に豊かに生きた私達の先祖である縄文人の精神を現代に投げかけます。

私は、敬愛する恩師、札幌大学名誉教授 詩人 原子修先生より「縄文は人類の未来」とのお言葉を頂き、心から感動して、現在の縄文太鼓の活動を始めました。この想いを胸の奥深くに持ち続け、縄文太鼓の制作と演奏を通じて世界に縄文芸術と縄文精神を発信したいと思えます。縄文精神とは私達日本人が持つ和の精神の根源だと確信しております。

昨年11月20日にパリでの縄文太鼓演奏を予定しておりましたが、11月13日に起こったパリ同時多発テロによって、延期を余儀なくされ、言葉にできない悔しい悔しい思いを致しました。今年は必ずパリでの縄文太鼓の演奏を叶えます。

新たな芸術や文化の創造・発信は、とても時間やエネルギーが必要となりますが、次の世代の子供達が将来に希望をもって、世界と手を繋ぎ輪(和)を大切に楽しく明るく前を向いて人生を過ごせる、そんな世の中になるように、一步一步私にできる小さな実践を積み重ねて参ります。そして、北海道から創造・発信するアイヌ芸術と縄文芸術と現代芸術の突き抜けた美を融合した舞台芸術を創造します。

次の世代が北海道に生まれたことを誇りに思える舞台を創造し、北海道経済と文化創造に生涯を掛けて寄与出来れば幸いです。

まだまだ、想いばかり大きく未熟な表現者では御座いますが、皆様からお声掛け頂く演奏機会の一つ一つを愛弟子達や仲間達と共に全身全霊で打ち抜き、研鑽し、更に喜んで頂ける表現者になります。

2016年もどうぞ、ご指導ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様にとって佳い一年でありますよう御祈念申し上げます。

2016年1月吉日

ジャンベ 縄文太鼓演奏家 茂呂剛伸



石森秀三さん

北海道博物館 館長

×

茂呂剛伸

# インタビュー vol.2 掘り起こそう、北海道のリズム

司会・撮影・構成 ウリュウ ユウキ

## 外からこそ見える 北海道のリズム感

・・・今回は「北海道のリズムを掘り起こす」をテーマにお話を伺っていただきたいと思います。

館内を拝見してきましたが、興味のあるテーマから入っていけるような展示方法を楽しませていただきました。120万年の北海道の歴史をたどる中に「北海道らしさ」をテーマにしたコーナーがありましたが、本州ご出身の石森先生にとって「北海道らしさ」とは何でしょうか？

**石森秀三さん** まず感じたのは四季の移ろいの明確さです。関西にいましたが、ビルや車の中では空調が効いて冬も夏もあまり変化がない。2006年4月に北海道大学での仕事を始め、歩く生活を始めたわけですが、その前日の夜に雪が降ったんです。早朝に起きてカーテンを開けたら一面銀世界というのは関西の人間にとっては考えられないことで「えっ?」と思いました。青空のもと新雪をザクザクと踏みしめて歩いていると心が洗われるような感覚でした。それが北海道との最初の出会いで「素晴らしい!」と思ったのです。大学の人たちから「5月になり雪が解けると一気に緑に変わって小鳥がさえずり花が咲く」と言われて「そんなわけないやろ」と思ったのですが、こちらに10年暮らして、桜から梅から何から一挙に花開き、緑が萌え花開く姿に、自然に対する感覚が変わりました。夏は関西の蒸し暑さとは違って過ごしやすく、本州からの出張の依頼があってもその時期は行きたくなくなる。本州からしたらここは天国です。そして秋になれば北大の

構内も一気に紅葉します。早く暮れるしちょっと物寂しく、関西が恋しくもなるのですが、やがてまた銀世界になって景色が明るくなると「雪ってすごいな」と思うのです。前も見えない吹雪の中、冬と一体化してしまうような感覚も感じます。人間は大きな自然の中ではちっぽけな存在なんだなと思いました。冬があるからこそ自然の大きさ、季節の移ろいを感じるわけで、僕は70歳になりますが、北海道に来てよかったなと感じたことの一つです。

**茂呂剛伸** 北海道にいると気づかないことがありますね。アフリカでは時間が止まって感じるんです。季節の移り変わりがあまりなく雨季と乾季があるだけで。道産子としてのリズム感は外に行かないと気づかないのかなと思っています。そして環境が自分に与える考え方の違いです。首都圏の人たちからよく北海道の人は考え方などのテンポが遅いと言われるのですが、それは結局自分自身の考えを構築していくときに自然を踏まえて考えるから遅いのか、気候風土が与える道民性によるものなのか、どこかゆったりしている感覚が自分の中にはあるのだと思います。しかし、経済的な時間軸でなく創造性の時間軸においてそれはプラスに転じると考えます。北海道はその意味でものづくりに適していますが、発信するのは難しいと感じます。

**石森** 茂呂さんは西アフリカでジャンベに出会ったわけですが、僕もミクロネシアのサタウル島に約1年暮らしました。音(聴覚)に力点を置く民族と色(視覚)に力点を置く民族があると思っていますが、サタウル島は声、音の文化がありました。一方、ヒンドゥーの世界では色がそれぞれに意味合いを持っている。

**茂呂** 小学校1年生から和太鼓をやっていたのですが、聴くというよりも見る、群舞の太鼓でした。そのプロになろうと過ごしてきた10代の終わりにジャンベに出会ったことは、まさに衝撃でした。見る文化はお客様とこちらが分かれてしまうけれど、聴く文化は自分がノッている参加型の文化と感じました。そして夢中になり、本場で学んでみたいと思い、ガーナに渡って作り方から習得したのです。

こちらに戻って、向こうの文化のコピーではなく北海道の文化を発信したいと思った時に、詩人の原子修先生と出会い、北海道にも縄文文化があったことを知りました。その頃から石森先生にも何度もご指導いただき、今日に至っています。

**石森** 北海道は本州よりも長く縄文文化が続いたと言われていますが、縄文の人たちは自然と共に生きてきたわけですね。こちらに住む前に旅をして好きだったのが東北地域でした。特に一番胸に響いたのは1995年3月に講演で山形を訪れた時です。空港に降り立って食べたのが山菜定食でした。これが大変気に入った。旅の中で東北の方々のゆったりした話し振りに温もりや心の安らぎを感じました。それ以降東北にお招きいただく機会が増えたのですが、どこに行ってもそう感じました。北海道が気に入ったのも同じことを感じたからです。今では日本の中で一番好きなのは北海道と言っていますが、ある時北海道と東北がなぜ好きなのかと考えた時に、豊かな自然の中でそんなに贅沢をせず、自然と共に生き長らえてきた縄文人の世界、文化が1万年以上も続いたことが北海道や東北の魅力だと思いました。



## 文化を、考古学を みんなのものに

茂呂 レヴィ-ストロースは縄文文化を他に類のない独創性があると評していますが、文化人類学的にもそれは貴重なことなんでしょうね。

石森 今から1万年ぐらい前に温暖化が生じて、旧石器から新石器が現れ、農耕文化が興っていきました。自由に動き回っていたのが定住するようになり、多くの人を養うことによって富が生まれ、そこから支配者と被支配者の関係、武力、知力に優れた人が生まれていくのですが、それに対して縄文文化は自然と共に生きていたわけです。優勝劣敗、差別の構造ではない安定的な社会を維持してきたことは世界史の中でも特別です。北海道はその後も続縄文の時代が続きました。現在、北海道・東北の縄文遺跡が世界文化遺産への登録を目指していますが、それは単にこの地域だけでなく"縄文列島"だった日本の代表としての動きだと思います。

僕が茂呂さんの仕事を高く評価しているのは、1万年以上栄えた縄文文化を持つ北海道の地で縄文太鼓を発想され、自ら土を集め、作っていることです。縄文人達も様々なものをその時々を生かしてきたと思いますが、茂呂さんも新たなものにチャレンジしつつ、歴史的なものも大切にしていることは素晴らしい試みです。

茂呂 この活動が、私自身の肉体が朽ちた時に終わってしまうのではなく、この地に、次の世代に残るようにするためにはどうすればいいか…それには弟子を育成したり、作ることを伝えることによって広く活動を知っていただくことが重要ですし、自立した観光資源として、観光と文化の側面から、北海道に生まれた"一次芸術"=ここから生まれた芸術として発信していきたいと強く思っています。そうした意味でも、北海道の文化が経済を伴っていくことが大切です。

石森 博物館の館長をしていて、その前は観光学、文化開発論を教えていて、しばしば文化は無駄遣いと言われもするわけですが、茂呂さんもおっしゃるように文化は

経済も動かしているんです。逆に文化と経済をうまくリンクさせないと文化を新たに作り維持し発展させることができません。その意味において茂呂さんは芸術家であると共に起業家としての豊かな発想があります。新しくより良い文化を作るために、自らいろいろな仕事をしながら続けている。外国での演奏も続けておられるわけです。

茂呂さんが自らの発想と原子先生からの影響を受けながら作られた縄文太鼓ですが、考古学に出会うきっかけは何でしたか？

茂呂 考古学の世界を初めて知ったのは「となりのトトロ」でした。お父さんが考古学の教授で、家に縄文土器があり、本が並んでいたりしてカッコいいなあと思ったんですね。「インディ・ジョーンズ」もそうで、考古学は冒険も伴う憧れの世界でした。たくさんの方の考古学者とお会いする中でフィールドワークをととても楽しんでいる姿にロマンを感じたのです。それを学術的にアピールする時に、考古学の世界では留まらない側面…遺骨が出た時には解剖学、縄文文化には美術的な側面もある。たくさんの方の学術を伴って考古学は形成されているのですが、それが現実には反映されていないのではないかと思います。専門的になればなるほど現在の実社会との乖離が出てくるわけで、そこにこそ縄文文化の魅力音楽を通じて体感的に、非・言語的に伝える自分の役割があると思いはじめました。

石森 日本の考古学の分野ではパブリック・アーケオロジー(\*)がまだ浸透していないように思います。

茂呂 各地の縄文のお祭りも、民ではなく官主体、予算ありきで行われていることが多く、外部的な発信力に至っていないのかなど。やる側に比重があって、参加する側に比重が置かれていないのではと思います。表現者が加わり、体感することによっておもしろいものにしていかなければならないですね。

三内丸山遺跡は観光地としても成功していて、対外的にも内部的にも評価が高いわけで、ではこの北海道の地からそうした活動をどう起こしていくか。そのためには、よく言われていますが、官・学・民のいろいろな力が集結していかなければならないのです。但しどうしても予算などの話になってしまうので、まず自分自身から小さいながらも出来る活動を提案し、賛同していただけたところから輪が広がっていけばいいのではないかと考えています。待ちではなく攻めの姿勢で進めていこうと考えています。

石森 土器作りや太鼓作りを子供たちに

教えていますよね。

茂呂 この活動ももう5年程になります。三内丸山遺跡や、こちらでも札幌・江別・島牧で毎年自分たちの街の土を使って太鼓を作り、そこにエゾシカの革を貼って演奏することをのべ500人以上の方とやってきました。原郷の土で作ることによって、例えば高校のない島牧村ではいつかは村を出ていかなければならなくて、その時に自分が作った縄文太鼓を持っていくことで村を思い出したり、また一回太鼓を叩いた技術は、自転車に乗るように体に入って忘れないものですから、帰ってきた時にみんな太鼓を叩ける文化…故郷と心をつなげておく文化を作ることが私の役割と思っています。

他にも音楽療法としてデイケアに通う方に太鼓に触れてもらって、音によってコミュニケーションを取り心を癒す活動を続けていて、日野原重明さんが北海道にいらした時にも見ていただき、とても進んだ活動をしていると評価していただきました。

石森 太鼓はもともとコミュニケーションの手段でもあったわけで、アフリカでは情報を伝達するツールでもありました。

茂呂 人間対人間のみならず、精霊信仰で神と呼ばれる存在との交信の手段でもありました。まさに先祖である縄文人達と、自然と共に生きるその生き方を交信できればと思っています。

石森 北海道・北東北の18の縄文遺跡の土を集め、演奏を続けておられますね。

茂呂 今は各市町村が各遺跡を管理しているのですが、学者レベルでは連携していても行政・地域レベルではまだそれが無いのが課題だとあって、ここの土はこういう音色がするんだよと、各地の方が地元の縄文遺跡に想いを馳せてくれるきっかけになればいいなど、そして縄文太鼓を作り奏でることによって心のつながりを持ち、記憶をよみがえらせることで縄文の生き方を現代に投げかけるのがコンセプトです。

石森 東日本大震災の時、お互いに助け合う姿に世界から大きな賞賛がありました。東北には縄文人の伝統が脈々と受け継がれていると思います。あれだけの悲劇が起こりながら、助け合い絆を大切にしてきました。茂呂さんが縄文太鼓を通じ地域の人たちの絆をより広げていこうとする試みは、縄文人たちがかつて人のつながりを重んじ、1万年以上も平和を続けてきたことにも通じます。時には人間にとって想像を絶する自然の猛威もありますが、あの津波を引き起こした海が、かけがえのない恵みを与えてくれているわけで、人間がお互いの結びつきを大切に歴史を重ねてきた文化がそこにあります。考古学者が「本当

に縄文太鼓はあったのか?』というふうなことを学術偏重の視点から言うのかもしれませんが、茂呂さんの演奏を聴きながら縄文人の心を考えてみると、自分も縄文人になったような気分になれます。それはすごいことなんじゃないですかね。もちろん、本当に縄文太鼓がどこかで発掘されたらいいのですが。

茂呂 縄文人達はきっと「迎え入れる」「来るもの拒まず」で、来たからおもてなしをし、そこには必ず歌や音楽があったはずなんです。北海道に来たらこれを見るんだという舞台芸術産業がまだ育っていない。おもてなしの文化、芸術を作っていきたいと思います。そこに縄文文化・アイヌ文化が寄り添って発信をするということが重要な課題です。

石森 インバウンド(外国からの旅行者)が2015年で1,900万人を超え、その1割が北海道に来ています。2020年には北海道として300万人のインバウンド受け入れを考えています。北海道に来ていただいた方に、縄文人のDNAを感じてもらうこともとても大切です。茂呂さんは縄文人そのものであり、茂呂さん達のパフォーマンスに触れると豊かな心の広がり生まれます。ぜひ今後も北海道の新しい文化としてがんばってもらいたいと思います。

・・・歴史と伝統を現在に生かしていくために必要なヒントがこの北海道や北海道博物館、そしてお二方にはあると思いますが、それを掘り起こし広げていくために必要なこと、できることは何でしょうか。

石森 北海道遺産協議会の会長をしております、遺産という古いものと思われがちですが、有形無形の宝物を未来に伝え、ただ単に古いからいいよねと言っているだけではなく、資源として新たな形でよりよく生かし、心に響くものにして支持を得て、経済にも結び付けねえなりません。現在52件ある北海道遺産に限らず地域の貴重な文化資源を新たな発想で変え、経済につながるものにするためには、相当にクリエイティブな力がないとダメなのです。北海道には素晴らしいクリエイターたちがいるわけですから、一つ一つの動きが全道で起きると面白いことになると期待しています。

・・・縄文人の道具にも感じられる「用の美」のように、大陸や本州からやってきた人々、そしてアイヌの人々が培ってきた文化との交流が今に続いていく姿を、この北海道を中心軸に考える…それが"場"としての北海道博物館にできることだと思います。茂呂さんはコンサートをすることが"場"です、場の存在の大切さを感じた人たちがまた新たな場を作っていくことにつな

がっていけばと思います。



## 北海道よ、 独立の気概を持て!

・・・最後に、これまでお話しいただいた歴史の流れを軸に、これからの北海道に求められる文化の形についてお聞かせください。

茂呂 まだ北海道はどこかの比較の対象になっていて独自性が光っていない、また来たい!と思わせるストーリーが組み立てられていない気がします。アイデンティティとしての文化をまだ自らが消化しきれていない。アイヌ文化や、さらに古い縄文文化も自分たちの文化なんだと道民が道外・海外に行った時に宣言できるような、そんなストーリーが欲しいのです。生まれた時から私たちは縄文人の末裔で、アイヌ文化と共にある現代人なんだと語れる文化力から、国際競争力も生まれると思います。

・・・そのきっかけとなるのが北海道博物館の常設展示「アイヌ文化の世界」ですね。ある家族の物語を通じて自分たちのルーツに触れていくという構成は楽しく、そしてもう一歩深く知りたくなる展示でした。

石森 最近講演のテーマに「Hokkaido as No.1」をよく掲げるのですが、観光資源、魅力はアジアの中でもナンバーワンだと思っています。だけど、欠けていると思うのは「独立」の気概です。北海道の人は優し過ぎて独立なんて考えていないようにも思いますが、食料自給率は圧倒的なナンバーワンです、「独立するんだ!」と思うことによって文化的・経済的なことも含めてフル回転できると思うのです。新聞で、噴火湾の大粒の帆立が輸出先で加工し付加価値をつけられている現状を読みましたが、元々素晴らしい素材があるだけに、もっと北海道の人たちが気概を持って「北海道はナンバーワンなんだ、だからちょっと独立でも考えようか!」と思うと、いろいろな新しい発想が生まれてきて、自分たちが持っているものの本当の価値に気づきそれを大切にしていけるのではないかと思います。

例えば円に代えて「道」という通貨を作っ

たり、道外から来る人には「入道税」をもらおう…笑い話みたいなことを道民が真剣に考えることによって、北海道の文化力も一気に噴き出しますよ。道産子は豊かな自然の中で暮らしていますし、茂呂さんもジャンベと出会い、さまざまにがんばっているように。

茂呂 思ってもみなかったところから尻を叩かれた思いです!そこまで言っていただけのポテンシャルが北海道にはあるんですね。

石森 絶対にあります。本当にあります。

茂呂 ものすごく大きな勇気をいただいて、私やウリュウさん、同世代の仲間たちが表現や経済、政治にも目覚めていく中で「北海道独立」という視点からいろいろなものが変わっていくのではないかなと肌で感じました。

石森 例えば独立を目指したスコットランドは北海道と面積や人口がほぼ同じです。住民投票まで持ち込んだ気概は絶対に大切です。まずは思考だけでも実験的に独立を考えてみるか!と。

茂呂 やっぱ先生は考え方がでっかいです!

・・・常設展示の入口に北海道を中心に南を向いた地図がありますが、そういう視点や発想を持つことによって北海道は変わっていくのではないかと。文化や歴史の力、まだまだ埋もれている力、才能、これまで生きてきた人たちが残してきて下さったものを、今に生きている私たちが掘り起こし、作って伝えていくことが、きっと"掘り起こす"ことを直接のお仕事にされている北海道博物館の皆さんや、表現に携わっている茂呂さんや私のような人たち以外にも、皆さんそれぞれの立場で必ずできることがあると確信しました。

茂呂 私のこれからの活動にも「北海道独立」というキーワードを頭に入れて、そうしたらどんな発想が生まれるんだろうというチャンネルを一個増やしてみたいと思います。がんばれという応援のメッセージをいただいて本当にうれしく思います。



(2015.11.18 北海道博物館館長室にて)

# 2016年 茂呂剛伸の活動



## 演奏等

下記以外にも、有難いことに既に道内外の祝賀会・懇親会・イベント・よさこい祭り・講演会・教育機関・医療福祉機関での演奏も多数ご依頼頂いております。本当にありがとう御座います。

- ・福島市公演 (1月中旬)
- ・北の縄文道民会議「道庁赤レンガ・縄文雪まつり」(2月6日、2月11日)
- ・茂呂剛伸後援会総会・1周年記念公演 (4月中旬予定)
- ・第7回「駱駝の瘤にまたがって」渡辺淳一文学館公演 (4月28日)
- ・フランス第1回茂呂剛伸定期演奏会 (パリ・6月以降予定)
- ・十勝中札内縄文ロード公演 (7月9日、7月10日)
- ・余市野焼き (8月)
- ・あいちトリエンナーレ 縄文太鼓演奏 (プレゼン中・8月11日以降予定)
- ・ユネスコ世界文化遺産候補縄文遺跡郡青森・秋田・岩手の各遺跡巡り (8月～11月)
- ・札幌芸術の森 登り窯演奏会 (9月下旬予定)
- ・第4回コンテンポラリージャンベコンクール (10月開催決定)
- ・第2回札幌時計台大晦日カウントダウンコンサート (12月31日予定)



今年も多彩な活動を計画しております。その一部をご紹介します。  
どうぞご期待、ご参加ください。



## 指導等

2016年は指導者の育成にも力を注ぎます。

- ・音楽療法ジャンベアンサンブル研究科 講師…茂呂剛伸 (スタジオG7(札幌・南4西1))
- ・道新文化センター ジャンベ教室 師範…石田しろ (イーアス札幌)
- ・プライベートレッスン教室 師範…澤口勝 (イーアス札幌)
- ・ワークショップ教室 師範…佐藤夕香 (スタジオG7)
- ・医療法人しもでメンタルクリニック デイサービス音楽療法講師
- ・地域活動支援センターまる商なはは ジャンベクラブ講師
- ・介護予防センター白石中央 認知症予防音楽療法講師
- ・島牧村中学校縄文太鼓卒業制作指導
- ・円山陶房(北海道陶芸協会) 縄文太鼓制作教室
- ・とわの森三愛高等学校 課外講師
- ・手稲区やまなみ保育園・札幌市わんぱく館幼稚園・澄川保育園にて演奏及び演奏体験



## リリース

- ・ジャンベDVD「おーい、ジャンベ! 第3弾」(初夏リリース予定)

「おーい、ジャンベ! 第1弾・第2弾」好評発売中!  
茂呂剛伸Webサイトでお求めいただけます



## 鷺ノ木遺跡で縄文太鼓を演奏

本誌2ページの年頭のご挨拶でもご紹介の通り、世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」での演奏を続けておりますが、昨年秋には鷺ノ木遺跡(北海道森町)での演奏をさせていただきました。この遺跡は環状列石と竪穴墓域を持ち、後の駒ヶ岳の噴火による火山灰に覆われ良好に保存されてきた場所で、当時の祭祀や本州との交流を伺い知ることのできる遺跡です。今年も各地の皆様のご協力を得て、縄文人たちへの敬意とともに演奏を続けてまいります。

写真：小林 幸王(レザボアプロダクション)



# information

## 後援会からのお知らせ

最新の情報は茂呂剛伸Webサイトをご覧ください

## 茂呂剛伸定期演奏会inパリ

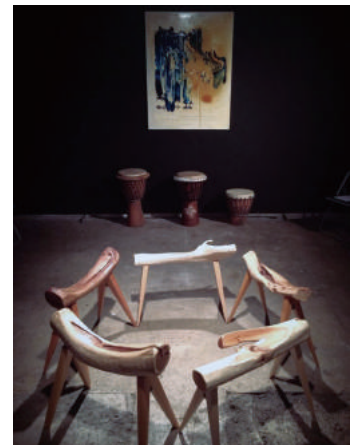
札幌での定期演奏会は、たくさんの皆様のご支援のもと昨年まで8年連続で開催し、のべ1,300名のお客様をお迎えすることができました。その志を背負い、ご縁あってパリにおいて定期演奏会を開催する運びとなりました。

同時多発テロの影響により昨年11月の開催予定から延期になりましたが、今年6月以降の開催を目指し、準備を進めております。言葉の壁、民族の隔たりを超える、そんな音楽の力・アート力で出来る事を実践したいと思います。

開催の詳細は決定次第、Webサイト・Facebook、及び本誌次号でご案内申し上げます。ぜひ海外のお知り合いにもご紹介ください。

■Webサイト…<http://www.goshinmoro.com/>

■Facebook…<https://www.facebook.com/goshin.moro> ([茂呂 剛伸]で検索)



## これからの会報発行予定

最後までお読み下さいまして、ありがとうございます。

本誌は年3回の発行を予定しております。今後も茂呂剛伸の活動、親交のある方々との対談などを通じてより充実した内容を目指してまいりますので、よろしくご愛読のほどお願いいたします。

■vol.03…2016年4月下旬発行予定 後援会発足1周年・夏の活動について

■vol.04…2016年9月下旬発行予定 茂呂剛伸 in パリ

\*内容は変更となる場合がございます

## 茂呂剛伸後援会 ご入会のお誘い

縄文の響きを未来へ…そんな思いをより多くの人々に伝えていく茂呂剛伸の活動をより近くで支えていただけるよう2015年4月に発足したのが「茂呂剛伸後援会」です。

本会報のお届けやイベントへのご案内、チケットの優先販売等の会員特典がございますので、是非ご入会いただきますようお願い申し上げます。

【入会のお問い合わせ】FAX 011-200-2113・メール [moro-t@mirai-t.com](mailto:moro-t@mirai-t.com) \*茂呂剛伸後援会ご入会の旨、タイトルにお書き添えください